

藤林構成員提出資料

児童相談所に期待されること

- 改正児童福祉法（通知文）で明記されたこと
 - ★ 専門的な知識及び技術
 - ★ 児童の心理、健康・発達、法律等の側面で専門的知識に基づく的確・迅速な対応。児童の福祉に関する業務を適切に行う
 - ★ 一時保護や施設入所等、行政処分としての措置等
 - ★ 「立入調査や一時保護、施設入所等の措置等の行政権限を活用しつつ、児童や保護者に対する専門的な支援」
 - ★ 家庭と同様の環境における養育の推進、里親業務・養子縁組業務
- 子どもの成長発達自立を保障するために
- 児童相談所が持っている行政権限の適切な（適法に）活用を通じて、あるいは、専門的な支援や市区町村との連携を通じて、
- 保護者への支援を通じて家庭での養育の保障
- あるいは、家庭環境と同様の養育環境の保障

児童相談所児童福祉司に必要な専門性

- 【基礎部分】ソーシャルワーカーとしての専門性（1年目から必要。無資格職は1年かけて習得）
一般的なケースワーク技術「臨床ソーシャルワーク」
関連する法制度や社会資源の理解、関係機関との連携
- 【2階部分】児童家庭相談ならではの専門性（svを受けながらの経験。3～5年間をかけて習得）
複雑・困難な事例に対するケースワーク技術「相談支援型ケースワーク」
市区町村、医療機関、学校、警察等との連携やコーディネート
児童相談所固有の専門性
同意に基づく行政処分（一時保護、措置、措置解除、2号措置）
里親委託、養子縁組、里親や養親支援、施設からの家庭移行支援
措置後のケースワーク、家庭復帰支援、家庭移行支援、LSW
- 【3階部分】児童相談所固有の高度な専門性（svを受けながらの経験。2～3年間かけて習得）
専門的知識に基づく高度な判断と行政権限の行使「介入型ソーシャルワーク」
職権保護、立ち入り調査、28条申立等親権制限に関わる行政処分や家庭裁判所への申し立て
警察・検察等との連携
家裁送致（触法、虞犯）
社会的養護に関する豊富な体験（措置後の計画的支援、父母不同意に伴う特別養子縁組、措置不調や被措置児童等虐待への対応）

S Vに特に必要な経験と専門性

- ・【3 階部分】専門的知識に基づく高度な判断と行政権限の行使「介入型ソーシャルワーク」は、親権や子どもの権利に関わるものであり、適切なS Vが必要
- ・また、【2 階部分】の相談支援型ケースワークをS Vするためには、【3 階部分】の介入型ソーシャルワークの経験と知識がなければ、対応が同意ベースのままになってしまい、介入が後手になってしまう
- ・社会的養護に措置した子どもへの適切なケースワークを行うためには、措置不調や被措置児童等虐待ケースの経験から学ぶところが多く、S Vにはこれら幅広い経験が求められる
- ・以上、児童相談所S Vには、行政権限行使と社会的養護の幅広い経験、および福祉的、心理的、医学的、法的知識が求められる。そこで、研修受講に先立って、受講者には事例のケースレポートの提出（可能であれば、その評価も）を必須とすることを提案する
- ・なお、精神保健指定医はケースレポートにより指定医として必要とされる法的医学的知識及び技術を有しているかについて確認されている

ケースレポートとS V研修案

- ・ケースレポートの提出
 - ★ 職権保護、立ち入り調査等事例
 - ★ 28条等親権制限事例
 - ★ 家裁送致事例
 - ★ 措置不調（被措置児童等虐待を含む）事例
- ・ケースレポートに対応した研修内容イメージ（講義と事例検討）
 - ★ 職権保護・立ち入り調査判断と介入型ソーシャルワーク
 - ★ 親権制限の判断と書面作成上の留意点、制限後の対応
 - ★ 被害確認面接と警察・検察との連携
 - ★ 非行相談と家庭裁判所送致
 - ★ 措置不調時の対応と施設・里親との連携、家庭養育移行のための計画づくり
 - ★ 最新の医学・心理学・法制度等の理解と課題